

# 葛飾や一弟子われに雁わたる

藤田湘子

この句は、銀座の路地裏にあつた鈴木真砂女の小料理屋「卯波」で、月一度開かれた席題句会「月曜会」での作。その日の夕刊の見出しから取った漢字一文字を題に即吟する。飯島晴子、黒田杏子、阿部完市、三橋敏雄などの参加で始まり、途中会場を鷹俳句会事務所に変えながらも、湘子の死の直前まで二十年近く続いた。

掲句は「一」の題で、「一弟子われ」を発想。師秋櫻子の「葛飾」、「雁わたる」と連想するところは、いかにも湘子らしい句である。

漢字一文字の席題方式は「鷹」の弟子達にも広まり、国語辞典の任意に開いたページの最初の漢字一文字を題に選び、袋回し句会を楽しんだりした。